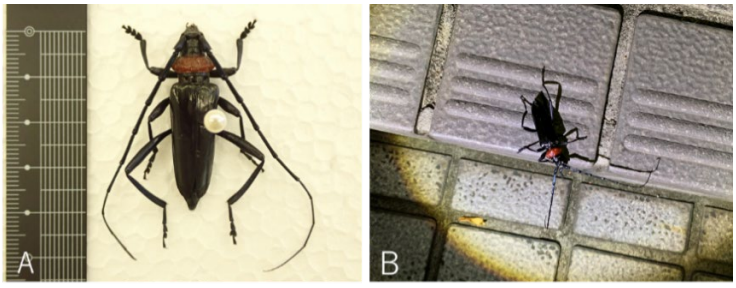
NEWS RELEASE 2026.11.13

自主創造
日本大学
NIHON UNIVERSITY

国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林総合研究所
Forestry and Forest Products Research Institute

特定外来生物クビアカツヤカミキリ定着個体群の早期発見と早期防除による局所的根絶の確認

―国内外で初めての根絶事例の学術報告―



藤沢市で初発見されたクビアカツヤカミキリ雄成虫。A: 標本　B: 街灯の下で発見された成虫


カミキリムシの脱出孔（▷）と樹脂（▶）


樹皮下にいる幼虫が排出するフラス

【ポイント】

・2021 年 6 月に神奈川県藤沢市（日本大学生物資源科学部構内）で発見された特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」（注 1）の被害（2021 年 7 月 8 日神奈川県農業技術センターより公表）について、2026 年 6 月に根絶したことを確認しました。

・発見直後に詳細な周辺調査を実施して被害の全容を把握し、成虫発生期に可能な限りの成虫捕獲を行うことで新規感染を最小限にとどめました。また、被害木を速やかに伐採し次年度の拡散を防ぎました。

・発生地を中心に約 200m 範囲内のサクラ類 500 本強について、2021 年から 2025 年にかけて年 2 回のモニタリング調査を継続しました。2026 年 6 月までに成虫の羽化脱出やフラス（注 2）（幼虫の排出物）の発生などが確認されず、根絶と判断しました。

・本事例は、世界的にも極めて稀なクビアカツヤカミキリ局所根絶の学術報告です。

【研究成果の概要】

日本大学生物資源科学部と森林総合研究所の研究グループは、2021 年に神奈川県藤沢市で発見された特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」の定着個体群を、早期発見と早期防除により 2026 年 6 月に根絶したことを確認しました。

クビアカツヤカミキリは、中国やロシアなどに自然分布し、日本には 2012 年に愛知県に侵入が確認された外来昆虫です。幼虫がモモやウメ、サクラ類（主に ‘染井吉野’ など）の樹皮下の組織を食害することで、宿主樹木を枯死に至らせます。近年、本種の分布拡大が報告されており、2026 年 8 月時点で 22 都府県にまで広がっています。その被害は農業分野にとどまらず、国立公園や天然記念物のサクラにも及んでおり、生態系や観光資源に甚大な影響を与えることが危惧されています。

クビアカツヤカミキリの根本的な防除方法は被害木の「伐採」ですが、実際には様々なハードルがあります。まず伐採には費用がかかるうえに、拡散防止のために厳格なルールが定められています。幼虫が樹木内にとどまっている 9 月から翌 4 月の間に確実な逸出防止措置を取ったうえで処理を行うか、それ以外の時期にはカミキリムシが逃げ出さないように厳重に梱包し、速やかに焼却や粉砕や燻蒸を行う必要があります。また、サクラやウメ、モモといった身近で親しまれている樹木を切ることへの心理的な抵抗も大きく、被害初期での伐採が難しいケースも少なくありません。幼虫は材の内部に生息することから薬剤処理のみで完全に駆除することも困難です。これらの理由により、これまで国内外において、局所的であっても根絶報告はありませんでした。

本事例では、以下の 4 点が根絶達成の重要な要因となりました。 第一に、初期段階（被害木が集中分布し、10 本以下）で発見できたことと、発見当初に成虫に対する高い捕獲圧をかけることができたことです。 第二に、樹木所有者（日本大学）への迅速な説明と理解により、防除予算が確保され伐採できた点です。 第三に、被害が疑われる樹木の全伐採を速やかに実施できたことです。 第四に、発生地周辺のサクラ類に対し、5 年間にわたる徹底したモニタリングを継続できる体制を構築したことです。さらに、DNA 分析の結果、藤沢市の個体群は関東北部地域から車両等に随伴して人為的に運ばれた「飛び地的な発生」であったことが示唆され、周辺からの新たな成虫の飛び込みがなかったことも有利に働きました。

本研究成果は、被害の拡大が懸念される中、侵入の最前線や飛び地的な発生地において、根本的防除である「伐採」とその後の「丁寧なモニタリング」を行うことで、確実に根絶できることを実際に示した極めて重要な事例です。

【発表者・研究者等情報】

日本大学生物資源科学部・大学院生物資源科学研究科
太田 祐子 教授（筆頭・責任著者）
酒井 大輝 博士課程
福士 達也 学部生（当時）
白濱 由杜 学部生
冨岡 哲央 学部生
野口 尊 学部生
松倉 君予 専任講師
深谷 緑 研究員
岩田 隆太郎 教授（当時・元日本大学生物資源科学部）

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 森林昆虫研究領域 昆虫生態研究室
田村 繁明 主任研究員
加賀谷 悦子 室長

【論文情報】

雑誌名：樹木医学研究 30 巻 129～137 ページ（10月31日発行）

題名：神奈川県藤沢市におけるクビアカツヤカミキリの早期発見と早期防除による局所的根絶

著者名：太田 祐子，酒井 大輝，福士 達也，白濱 由杜，冨岡 哲央，野口 尊，松倉 君予，深谷 緑，岩田 隆太郎，田村 繁明，加賀谷 悦子

DOI：doi.org/10.18938/treeforesthealth.30.4_129
URL：https://doi.org/10.18938/treeforesthealth.30.4_129

【用語解説】

（注 1）クビアカツヤカミキリ ：中国、ロシアなどに自然分布する大型のカミキリムシ。2012 年に日本への侵入が確認され、2018 年に特定外来生物に指定された。幼虫がバラ科樹木（サクラ、ウメ、モモなど）の内部を食い荒らし、樹木を枯死させる。 被害の急拡大を受け、2026年7月に国は政府内にクビアカツヤカミキリ対策本部を設置し、同9月に「クビアカツヤカミキリ防除戦略」を策定した。

（注 2）フラス ：カミキリムシの幼虫が排出する糞と木くずの混ざったもの。クビアカツヤカミキリの被害を発見する重要なサインとなる。

【問い合わせ先】

日本大学生物資源科学部森林学科 太田 祐子 教授

森林総合研究所企画部広報普及科広報係

Tel: 029-829-8372
E-mail: kouho@ffpri.go.jp

発信元：日本大学広報部広報課 〒102-8275 東京都千代田区九段南四丁目 8 番 24 号
TEL 03-5275-8132 FAX 03-5275-8321
https://www.nihon-u.ac.jp